

〔指定発言〕

## 「本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する疫学研究」 JEMS 中間報告

鳥取大学産科婦人科

谷口 文紀

日産婦学会・腫瘍委員会の班研究として発足した世界初の前方視的研究「本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する疫学研究 (JEMS)」を2007年から開始した。本研究では、全国の30歳以上の卵巣チョコレート嚢胞患者を対象に、以下の調査を行う。

(1) 卵巣チョコレート嚢胞の正確な癌化率を算出する、(2) 患者背景の解析からリスク要因を抽出する、(3) 嚢胞摘出術による癌発生の予防効果を探索する。術後6ヵ月以内の症例は登録可能とし、予後調査期間は患者登録後10年とする。

一昨年の本学会で報告したが、後述するJEMS 後方視調査をはじめとする新たな疫学調査の情報を加味した結果、ネステッド・ケースコントロール型研究の遂行には卵巣癌発生33名の集積が必要であることから、新しい目標患者登録数を4200名と再設定した。2014年9月現在、患者登録が実施されたのは87施設と増加した

が、登録患者数は約2500名と滞っており、目標数には程遠い状況である。このままでは研究の完遂が難しいことから、研究参加施設には新規患者登録をお願いしたい。登録患者の年齢は平均38.4歳、嚢胞最大径は平均4.6cmであった。第5回患者予後調査を終えた時点で、9例の卵巣癌発生が報告された。

前方視的研究に加え「卵巣チョコレート嚢胞の癌化に関する後方視的調査」を実施した (Taniguchi F, et al : Gynecol Obstet Invest, 2014)。JEMS 登録患者以外で、チョコレート嚢胞として外来観察された後に癌発生した33症例について検討した。癌診断時の年齢は平均47.7歳で、閉経前の癌発生が全体の75.7%を占めた。卵巣癌進行期分類は1期が全体の85%であった。また嚢胞摘出術後の癌発生が6例 (術後1~17年) 認められた。これらの集積結果についても報告する。